

6-6. 都市基盤施設

6-6-1. 市営自転車駐車場【7 施設】

(1) 施設の概要

駅周辺の路上などに放置された自転車は、歩行者や車イスを利用されている方にとって、大変迷惑なものです。そのため、乗降者数が多い駅を中心に、有料の市営自転車駐車場を7か所設置しており、これらは川越市自転車駐車場条例で位置付けられています。市営自転車駐車場は、(社)川越市シルバー人材センターが指定管理者になっています。

この7施設以外に市内には、(財)自転車駐車場整備センターが運営・管理する公営自転車駐車場が6か所と、本市の無料の自転車置場が5か所あります。それ以外にも民営の駐輪場が多数あります。



川越駅東口自転車駐車場



南大塚駅南口自転車駐車場

【図 6-6-1-1】施設一覧 市営自転車駐車場

	施設名	所在地	面積 (㎡)				利用状況						
			土地	うち借地	建物	うち借家	収容可能台数(台)	一時利用台数(台)	定期利用台数(台)	利用台数合計(台)	利用率 (%)	実車台数(台)	実車率 (%)
1	川越駅東口自転車駐車場	菅原町22-12	985.12	0.00	2,250.67	0.00	2,490	290	2,047	2,337	93.9%	1,596	64.1%
2	川越駅西口第一自転車駐車場	脇田本町25-4	882.07	0.00	2,000.28	0.00	1,302	146	1,336	1,482	113.8%	870	66.8%
3	川越駅西口第二自転車駐車場	脇田本町39-66	510.52	0.00	1,024.67	0.00	1,169	236	958	1,194	102.1%	916	78.4%
4	本川越駅前自転車駐車場	新富町1丁目2-6	0.00	0.00	310.59	310.59	195	77	175	252	129.2%	212	108.7%
5	新河岸駅自転車駐車場	砂新田45-1	1,123.93	0.00	10.46	0.00	630	99	446	545	86.5%	310	49.2%
6	南大塚駅南口自転車駐車場	南台3丁目14-1	536.81	536.81	6.00	0.00	520	-	324	324	62.3%	200	38.5%
7	的場駅前自転車駐車場	的場1313-12	1,063.43	0.00	8.64	0.00	782	167	492	659	84.3%	468	59.8%

実車台数及び実車率は各調査日の任意の時間帯に実際に駐車してあった自転車の数値。
駐車場の利用台数合計は各調査日の一時利用台数に10月末の定期利用台数を加えた数値。

(財)自転車駐車場整備センターが運営・管理する公営自転車駐車場は、当該法人が、本市から用地を無償で借用し、施設を建設並びに運営・管理をしています。駐輪場の利用者から徴収する利用料によって、建設費などの償却が終了した一定期間の後、本市にその施設を無償譲渡する契約に基づき設置されているものです。

【図 6-6-1-2】施設一覧 公営自転車駐車場

施設名	所在地	面積 (㎡)		利用状況						
		土地	建物	収容可能 台数(台)	一時利用 台数(台)	定期利用 台数(台)	利用台数 合計(台)	利用率 (%)	実車台 数(台)	実車率 (%)
霞ヶ関駅南口自転車駐車場	霞ヶ関東1丁目6-13	550.90	929.10	815	73.0	472	545.0	66.9%	302	37.1%
笠幡駅前自転車駐車場	笠幡3734-2	381.38	680.12	551	48.0	261	309.0	56.1%	220	39.9%
笠幡駅前第2自転車駐車場	笠幡4597-2	231.60	136.34	206	108.2	77	185.2	89.9%	136	66.0%
西川越駅自転車駐車場	小ヶ谷602-6	278.82	165.38	284	76.5	91	167.5	59.0%	131	46.1%
南古谷駅前自転車駐車場	並木202-11	1,085.59	2,007.93	1,671	322.7	1,206	1,528.7	91.5%	1,202	71.9%
霞ヶ関駅北口自転車駐車場	的場2836-16	605.10	1,110.43	625	21.2	146	167.2	26.8%	122	19.5%

実車台数及び実車率は各調査日の任意の時間帯に実際に駐車してあった自転車の数値。
 自転車駐車場の利用台数合計は、一時利用台数に10月末の定期利用台数を加えた数値。
 一時利用台数は自転車駐車場整備センター報告の月間利用台数を平日の営業日(土日、祝日、休日は係員不在により一時利用の数値が出ないため)で除した数値。

無料の自転車置場は、(社)川越市シルバー人材センターに自転車の整理を業務委託しています。

【図 6-6-1-3】施設一覧 無料自転車置場

施設名	所在地	面積 (㎡)	利用状況		
		土地	収容可能 台数(台)	実車台数 (台)	実車率 (%)
鶴ヶ島駅西口自転車置場	天沼新田195-1	88.87	90	205	227.8%
新河岸駅第一自転車置場	砂951	1,461.00	882	495	56.1%
新河岸駅第二自転車置場	砂869	963.00	849	829	97.6%
南大塚駅南口自転車置場	南大塚4丁目3-27	1,327.00	1,124	731	65.0%
南大塚駅北口自転車置場	南大塚2丁目21-7	606.15	545	487	89.4%

実車台数及び実車率は各調査日の任意の時間帯に実際に駐車してあった自転車の数値。

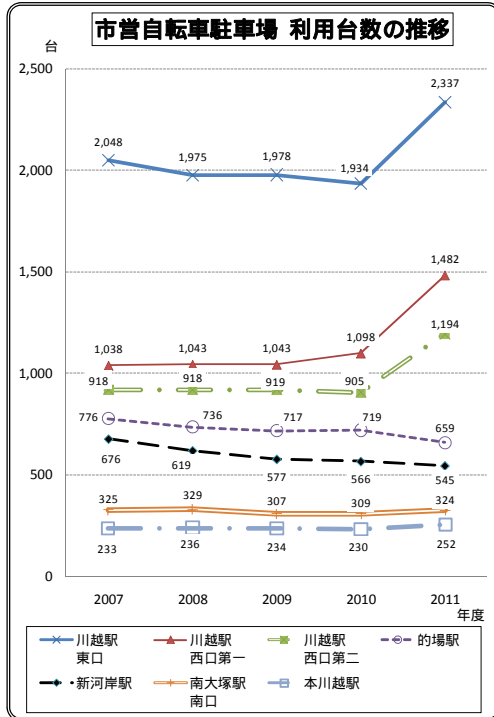
市内配置図(市営自転車駐車場等)



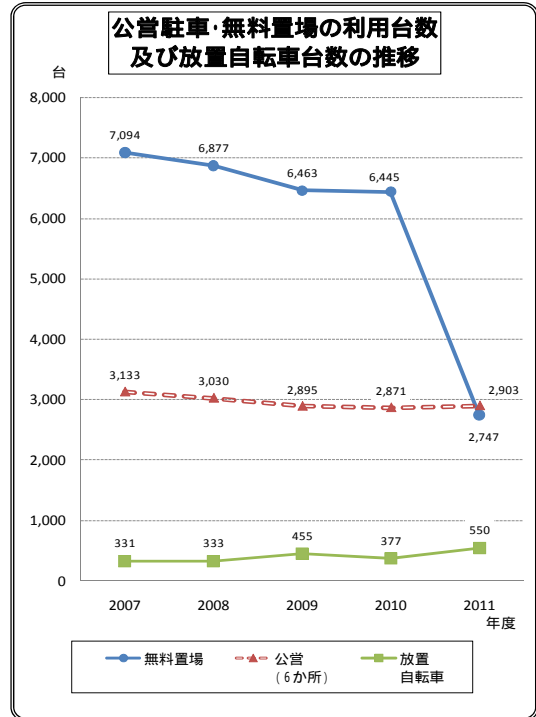
(2) 利用の実態

川越駅西口無料自転車置場が、土地を民間事業者に賃貸する方式により2011年から民間の有料駐輪場になりました。そのため、無料の自転車置場の利用台数が大きく減少し、川越駅に近い市営自転車駐車場(川越駅東口、西口第一、西口第二)の利用者が増えています。

【図 6-6-1-4】市営自転車駐車場



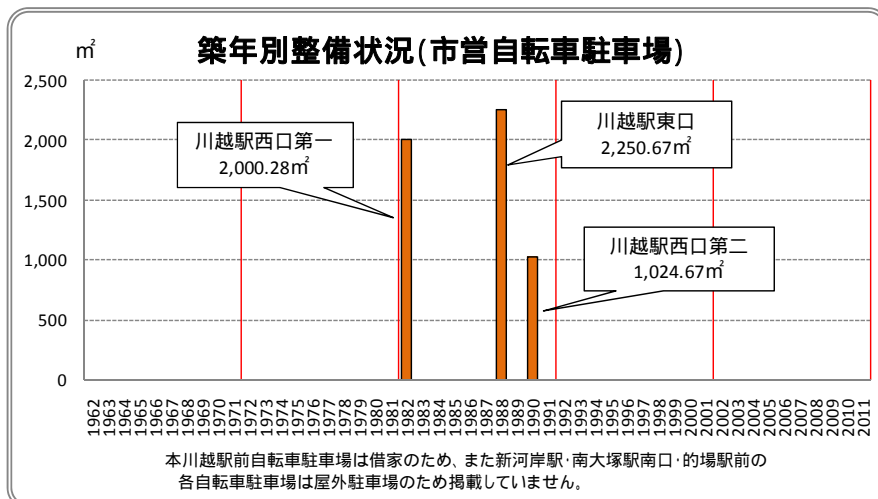
【6-6-1-5】公営駐車・無料置場



(3) 施設の物理的状況

市営自転車駐車場は、主に鉄骨で造られており、比較的新しい施設が多く耐震性能に問題はありません。

【図 6-6-1-6】築年別整備状況



【図 6-6-1-7】スペック一覧表

施設名	構造等	老朽化状況		耐震補強	バリアフリー						環境対応		
		建築年	経過年数		車椅子用エレベーター	手すり	車椅子用スロープ	障害者用トイレ	自動ドア	点字ブロック	太陽光発電	屋上・壁面緑化	環境対応設備
1 川越駅東口自転車駐車場	S造 地下1階、地上2階(屋上有)	1988	23	不要	×	×	×	×	×	×	×	×	×
2 川越駅西口第一自転車駐車場	S造 地下1階、地上2階	1982	30	不要	×	×	×	×	×	×	×	×	×
3 川越駅西口第二自転車駐車場	S造 地下1階、地上2階(屋上有)	1990	21	不要	×	×	×	×	×	×	×	×	×
4 本川越駅前自転車駐車場	LGS造 地上2階	2002	9	不要	×	×	×	×	×	×	×	×	×
5 新河岸駅自転車駐車場	W造 平屋根	1994	18	不要	×	×	×	×	×	×	×	×	×
6 南大塚駅南口自転車駐車場	S造 屋根なし	1993	19	不要	×	×	×	×	×	×	×	×	×
7 的場駅前自転車駐車場	LGS造 平屋根	1988	23	不要	×	×	×	×	×	×	×	×	×

(4)コスト分析

市営自転車駐車場は、(社)川越市シルバー人材センターが 2006 年度より指定管理者として管理しているため、賃借料及び修繕費(一定額以上)を除けば、指定管理料としての外部委託料しか発生しません。

【図 6-6-1-8】コスト一覧表

	1	2	3	4	5	6	7	公営自転車駐車場 無料自転車置場	合計
市営自転車駐車場	川越駅東口 自転車駐車場	川越駅西口第一 自転車駐車場	川越駅西口第二 自転車駐車場	本川越駅前 自転車駐車場	新河岸駅 自転車駐車場	南大塚駅南口 自転車駐車場	的場駅前 自転車駐車場		
光熱水費	-	-	-	-	-	-	-	124,158	124,158
修繕費	-	6,077,568	-	-	-	-	-	177,676	6,255,244
外部委託料	16,481,007	9,888,604	9,888,604	9,158,000	9,327,964	5,528,735	9,235,430	1,956,310	71,464,654
使用料及び賃借料	-	-	-	11,838,132	-	-	-	13,591,532	25,429,664
備品購入費	-	-	-	-	-	-	-	-	0
工事請負費等	-	-	-	-	-	-	-	-	0
施設にかかるコスト計	16,481,007	15,966,172	9,888,604	20,996,132	9,327,964	5,528,735	9,235,430	15,849,676	103,273,720
講師等報償費	-	-	-	-	-	-	-	-	0
消耗品費等	-	-	-	-	-	-	-	59,367	59,367
通信運搬費等	-	-	-	-	-	-	-	-	0
補助金等	-	-	-	-	-	-	-	-	0
人件費	-	-	-	-	-	-	-	-	0
事業にかかるコスト計	0	0	0	0	0	0	0	59,367	59,367
支出合計	16,481,007	15,966,172	9,888,604	20,996,132	9,327,964	5,528,735	9,235,430	15,909,043	103,333,087
補助金等	-	-	-	-	-	-	-	-	0
使用料等	58,691,750	24,007,100	21,499,640	8,564,000	17,715,550	4,153,920	12,659,000	-	147,290,960
その他収入	-	-	-	-	-	-	6,000	1,500	7,500
収入合計	58,691,750	24,007,100	21,499,640	8,564,000	17,715,550	4,153,920	12,665,000	1,500	147,298,460
収支差額	-42,210,743	-8,040,928	-11,611,036	12,432,132	-8,387,586	1,374,815	-3,429,570	15,907,543	-43,965,373
土地評価単価	250,000		193,000	借家	139,000	借地	94,600		

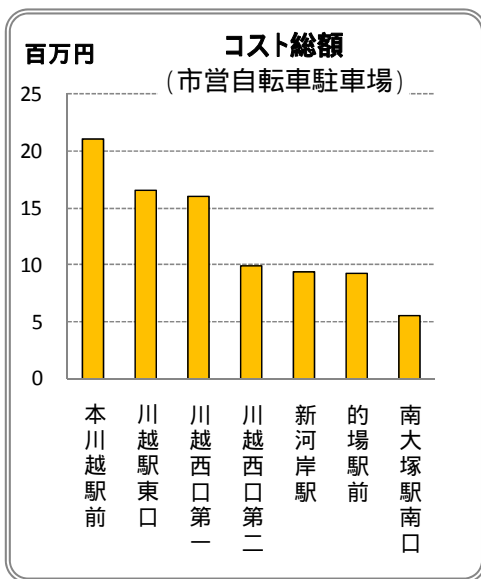
東口、西口第一、西口第二の委託料は、東口自転車駐車場で一括指定管理となっているため、管理人の人数按分による額としています。

利用者 1 台あたりコストは、本川越駅前自転車駐車場が突出して高く、受益者負担率は最も低くなっています。これは民間ビルを使用して自転車駐車場を設置しているため、賃借料の負担が大きいことが主な原因です。本市が 2011 年 10 月に行った実態調査によると、本川越駅周辺には 16 か所の民営駐輪場があり、その収容可能台数は 3,383 台、実車台数は 2,073 台(実車率 61.3%)でした。一方この施設の収容可能台数は 195 台であり、このことから、今後この施設を維持していくのか、検討が必要と考えられ

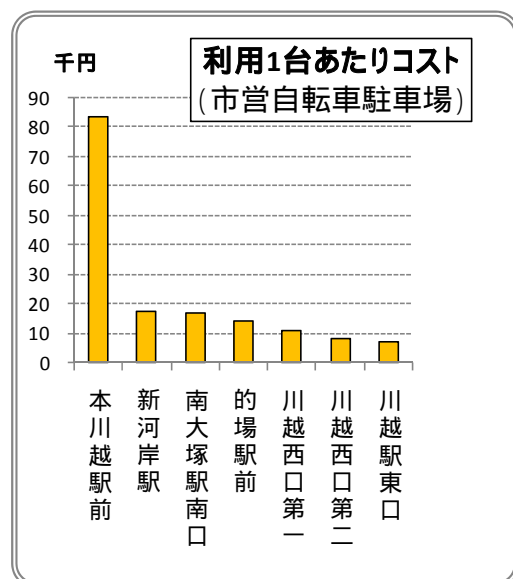
ます。

次に受益者負担率が低いのは、南大塚駅南口自転車駐車場です。先の実態調査では、市営自転車駐車場の中で最も利用率が低く、そのため本川越駅前自転車駐車場とともに収支が赤字となっています。この施設は、屋根がない駐輪場であり、設置以来約 20 年近く経過していることから、自転車を収納するラックも故障などで不使用になっているものも多数あります。そのため、費用対効果をよく検討した上で、場合によっては、全てのラックを一新するなどして利用者へのサービスを向上させ、利用者増加から収益改善に結び付ける可能性があると考えられます。

【図 6-6-1-9】コスト総額

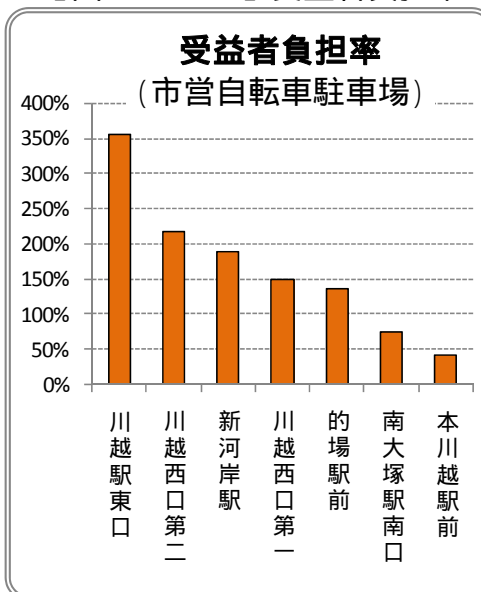


【図 6-6-1-10】利用 1 台あたりコスト



支出合計を利用台数で除した数値

【図 6-6-1-11】受益者負担率



(5)まとめ

コスト分析で記載したとおり、市営自転車駐車場の7施設では、本川越駅前自転車駐車場と南大塚駅南口自転車駐車場について、集中的な検討が必要と考えられます。

一方、本市には多くの民営駐輪場があります。先の実態調査によると市内全域で94か所、10,951台の自転車を収容しており、駅周辺に駐車されている自転車の約52%をカバーしています。

仮にこれらが廃業などをして、その分を市営自転車駐車場で賄うとすると、用地取得費及び建設費並びに後年度の施設管理費などに相当な負担が生じることになります。そのような事態を避けるために、行政は、民営駐輪場が今後なるべく存続していくよう支援し、無料自転車置場も含めた市営・公営自転車駐車場は、あくまで民営駐輪場が不足している場所でのみ設置又は維持されるものであると考えられます。

6-6-2. 公共駐車場【1 施設】

(1) 施設の概要

川越駅東口公共地下駐車場(以下、「公共駐車場」という。)は、川越駅東口の再開発に伴い、川越駅周辺の駐車場不足による違法駐車、交通渋滞の解消を目的として、川越駅東口公共地下駐車場条例で位置付けられた公共施設です。川越駅東口デッキ地下部分にある第一駐車場は都市計画駐車場(路外駐車場)であり、アトレ地下部分にある第二駐車場は附置義務駐車場です。



川越駅東口公共地下駐車場

公共駐車場は、改修工事によって2011年12月1日から全面平置駐車場となりました。公共駐車場にかかる収支は、その費用と負担の関係を明確にするため、一般の歳入歳出とは区分して、「川越市川越駅東口公共地下駐車場事業特別会計」によって処理されています。

【図 6-6-2-1】施設一覧

	施設名	所在地	面積 (㎡)				駐車台数	営業時間	休館日	駐車できる自動車
			土地	うち借地	建物	うち借家				
A	川越駅東口公共地下駐車場	脇田町106	71.73	0.00	9,960.46	0.00	208台	24時間 ただし、入出庫できる時間は、7:00から23:00まで	1月1日	長さ6.00m以下 幅2.50m以下 高さ2.30m以下 重さ4.0t以下

駐車料金は30分ごとに120円及び税(10円未満切り捨て)ですが、22:00から翌日8:00までの夜間料金1,260円(税込)です。また、回数券30分券(11枚つづり1,260円(税込))、回数券1時間券(11枚つづり2,520円(税込))、カード券(30分券47枚相当分5,000円(税込))、定期券(1か月17,800円)があります。

公共駐車場の市内配置図は、「6-6-1.市営自転車駐車場」に記載しています。

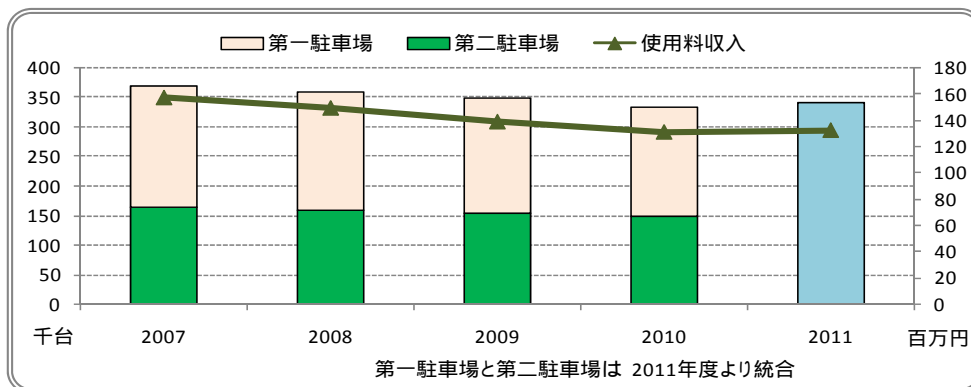
(2) 利用の実態

公共駐車場は、2010年度までは第一駐車場勘定、第二駐車場勘定と区分して経理を行っていましたが、2011年度より、両者を統合しています。

駐車場利用台数は、おおむね34~36万台で推移していますが、若干減少傾向にあります。2010年度及び2011年度には二段式駐車機械を撤去する改修工事の影響から利用者が減少しました。また、使用料収入も同様に、約1億6,000万円から約1億3,000万円へと減少傾向にあります。

利用形態別では、単発利用が約52%、1時間の回数券が46%で、この両方で利用のほとんどを占めています。1日の平均利用台数は約930台、1区画の平均回転数は4.47回/日、平均駐車時間は1.55時間です。

【図 6-6-2-2】利用台数及び使用料収入の推移



(3) 施設の物理的状況

公共駐車場は、アトレ及び川越駅東口デッキと一体で構築されています。耐震性能に問題はありませんが、建築から 22 年を経過して、修繕工事の増加が見込まれます。

【図 6-6-2-3】スペック一覧表

施設名	構造	老朽化状況		耐震補強	バリアフリー					環境対応			
		建築年	経過年数		車椅子用エレベータ	手すり	車椅子用スロープ	障害者用トイレ	自動ドア	点字ブロック	太陽光発電	屋上・壁面緑化	環境対応設備
A 川越駅東口公共地下駐車場	RC造	1990	22	不要			×		×	×	×	×	

(4) コスト分析

公共駐車場は、約 1 億 3,000 万円の使用料収入や約 4,500 万円の繰越金収入があり、一方で事業にかかるコストは約 1 億 5,000 万円であるため、約 2,600 万円の収支差額が生じました。

【図 6-6-2-4】コスト一覧表

公共駐車場	川越駅東口公共地下駐車場
光熱水費	7,062,723
修繕費	7,989,450
外部委託料	29,283,975
使用料及び賃借料	2,296,974
備品購入費	-
公課費	1,163,800
工事請負費等	26,659,500
施設にかかるコスト計	74,456,422
講師等報償費	-
消耗品費等	2,268,429
通信運搬費等	884,360
補助金等	9,815,246
人件費	2,318,732
事業にかかるコスト計	15,286,767
繰出金	62,277,000
支出合計	152,020,189

補助金等	-
使用料等	132,508,310
その他収入	45,029,024
収入合計	177,537,334
収支差額	-25,517,145
土地評価単価	467,000

しかし、コストのうち約 6,200 万円が繰出金として一般会計の歳入に充てられており、また、2011 年度は約 2,700 万円の工事請負費等が生じているため、これらを除いた公共駐車場のコストは約 6,300 万円です。使用料収入から控除すると約 7,000 万円の黒字となります。

利用台数あたりのコストは 186 円であり、受益者負担率は 210%です。

公共駐車場の主な業務である管理(受付・誘導・精算など)は(社)川越市シルバー人材センターに委託しています。1日4時間ずつ、料金所6人、誘導3人体制で管理しています。

(5)まとめ

公共駐車場は、毎年度一定規模の収入を一般会計に繰出しており、本市の貴重な財源の一部となっています。2011 年度には改修工事が完了し、今後は利用台数及び使用料などの増加が期待されます。

一方、ここ数年は利用台数が伸び悩みの状況にあります。また、アトレ地下部分にある第二駐車場は、アトレ利用者との結びつきが強く、公共サービスとして、本市がどこまで関与すべきか検討が必要と考えます。

6-6-3. 公園施設

(1) 施設の概要

公園施設に位置付けられる公共施設には、公園を管理する管理事務所のほか、四阿(あずまや)・便所などがあります。公園施設は数が多いため、個別施設の利用の実態及び施設の物理的状況は割愛します。



伊佐沼公園

【図 6-6-3-1】施設一覧

	延床面積	備考
初雁公園	1,207.82㎡	管理棟(167.75㎡)など27棟合計
初雁公園外	268.36㎡	寄付住宅(174.1㎡)など3棟合計
伊佐沼公園	150.00㎡	便所(47.00㎡)など8棟合計
安比奈親水公園管理詰所	123.44㎡	物置(86.25㎡)など4棟合計
上戸緑地管理詰所	113.76㎡	詰所(97.19㎡)など2棟合計
城下公園	105.00㎡	管理棟
その他公園施設(90か所合計)	957.96㎡	芳野台南公園便所など
合計	2,926.34㎡	

公園施設のうち、100㎡以上の施設を掲載し、それ以外はまとめて掲載します。

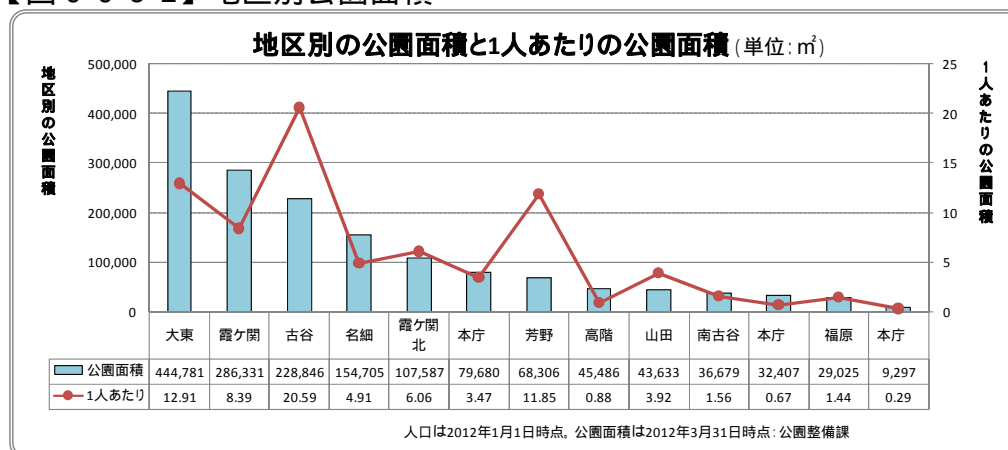
本市では、2012年8月になぐわし公園を予定敷地面積8.3haのうち2.1ha部分を先行して開園しました。公園内には、温水利用型健康運動施設(PiKOA)がありスポーツジム・体育館・温水プール・浴場などがあります。また、この先行して開園した部分は、本市で初の設計・建設・資金調達・運営を民間に委ねたPFI方式を採用しました。

初雁公園内には、川越市営初雁公園野球場があり、少年野球、高校野球埼玉県大会などが行われ、市民に長い間親しまれています。しかし、1952年に開場してから50年以上経過し、老朽化が進んでいます。

また、初雁公園外の寄付住宅の一部は、行政財産の目的外使用許可により、NPO法人が美術館として活用しています。

次に、本白書の対象とする公共施設ではありませんが、公園面積について分析をします。

【図 6-6-3-2】地区別公園面積



中核市平均（2011年4月1日時点）では、都市公園数は414か所で、1人あたりの公園面積は10.4 m²/人です（川越市の都市公園数は254か所、4.6 m²/人）。1人あたりの公園面積の大きい市は、高崎市（24.3 m²/人）、函館市（21.7 m²/人）、奈良市（19.9 m²/人）です。逆に1人あたりの公園面積の小さい市は、豊中市（2.4 m²/人）、東大阪市（2.6 m²/人）、船橋市（2.8 m²/人）です。

また、県内類似市との都市公園面積の比較では、本市は川口市、越谷市に次いで3番目です。

【図 6-6-3-3】県内類似市比較

	市立の公園面積(m ²)	市立以外の公園面積(m ²)	公園面積計(m ²)
川越市	1,170,763	396,000	1,566,763
川口市	1,977,620	0	1,977,620
所沢市	762,900	502,000	1,264,900
越谷市	1,277,600	311,000	1,588,600

公園面積は2012年3月31日

都市公園法施行令では、都市公園の敷地面積の標準について住民1人あたり10.0 m²以上、市街地の都市公園の当該市街地の住民1人あたりの標準は5.0 m²以上とされています。本市は4.6 m²/人であり、市街地の標準にも達していません。

なお、本市では、「川越市緑の基本計画」において1人あたりの都市公園面積の目標を2022年までに10.7 m²（都市公園・広場・民間施設緑地を含め20.0 m²）としています。

(2)コスト分析

公園の維持管理にかかるコストは約6億円であり、その多くは外部委託料となっています。また、収入は初雁公園内にある野球場、市民プールの使用料などです。

【図6-6-3-4】コスト一覧表

公園管理	
報償費	2,845,000
消耗品費等	16,435,895
光熱水費	25,160,828
修繕費	10,921,192
通信運搬費等	5,221,978
外部委託料	230,852,877
使用料及び賃借料	87,609,420
備品購入費	1,365,000
負担金	347,075
人件費	131,829,300
工事請負費等	76,575,450
維持管理にかかるコスト	589,164,015
使用料等収入	8,745,289
収支差額	580,418,726

(3)まとめ

公園には、全年齢を対象として多くの人に利用されている市民の憩いの場としての役割があります。また、災害時における一時的な避難場所としての機能を担っています。これらのことから今後も適切な維持管理が必要です。

なお、初雁公園野球場を含む初雁公園全体は、城址公園化を目指しており社会経済環境の変化などを踏まえながら検討していきます。

また、前述したPiKOAで使用される温水は、隣接する資源化センターにおいて、ごみ処理の際に発生した熱により作り出されており経費削減が図られています。

6-6-4. 防災施設

(1) 施設の概要

防災施設に位置付けられる公共施設には、災害備蓄庫(13か所)、備蓄品保管室(6か所)、災害用給水井戸(23か所)があります。

災害備蓄庫は、1979年から物資や機材などを備蓄するために、順次整備してきました。主な備蓄品は、非常食(乾パン・アルファ米・缶詰・かゆ)、生活用品・必需品(懐中電灯・乾電池・下着セット・毛布など)、機材(発電機・投光器・排水ポンプ・リヤカー・ハンマー・組み立てトイレなど)です。市内13か所にバランスを考慮して配置しています。

備蓄品保管室は、全ての小中学校(初雁中学校にはありませんが、災害備蓄庫があります。)及び市立川越高等学校の55か所に設置されています。その多くは、余裕教室などに設置されていますが、公共施設として別棟で設置しているのは6か所あります。主な備蓄品は、大きな機材を除き災害備蓄庫のものと同様です。

災害用給水井戸は23か所に設置され、うち22か所は中学校区ごとに一部の小中学校と市立川越高等学校に、残り1か所は蔵造りの建物が並ぶ伝統的建造物群保存地区(伝建地区)にそれぞれ設置されています。前者は、災害時において給水井戸による飲料水の供給を確保するため、後者は伝建地区の火災時の初期消火及び飲料水の供給を確保することを目的としています。

防災施設は、小規模な施設が多数あるため、個別施設の利用の実態及び施設の物理的状況は割愛します。



災害備蓄庫



災害用給水井戸

【図 6-6-4-1】施設一覧

	施設名	か所数	総延床面積(m ²)	備考
1	災害備蓄庫	13	1,136.29 m ²	宮下(309.88m ²)、岸町(142.40m ²)、仙波(117.00m ²)、名細(108.00m ²) など
2	備蓄品保管室	6	115.03 m ²	市立川越高、芳野小、芳野中、大東西小、月越小、川越第一小
3	災害用給水井戸	23	262.10 m ²	小学校13か所、中学校8か所、市立川越高校、伝建地区
	合計	42	1,513.42m ²	

(2) コスト分析

2011年度のコストは、【図 6-6-4-2】のとおりです。災害用給水井戸は、地中100mからくみ上げています。災害時にも飲料水を供給できるように保守点検及び水質検査を委託しています。

【図 6-6-4-2】コスト一覧表

防災施設		備蓄庫・保管室	井戸	合計
	光熱水費	103,665	79,766	183,431
	外部委託料	-	4,349,340	4,349,340
施設にかかるコスト 計		103,665	4,429,106	4,532,771

(3)まとめ

1995年1月の阪神淡路大震災を受け、当時の備蓄庫の数では大規模災害への対応が困難であることから、避難所である小中学校及び市立川越高等学校に備蓄庫・備蓄品保管室の整備を進めました。

整備は2004年度に完了しましたが、2011年3月の東日本大震災を受け、防災施設の重要性が認識されています。